

# こうち子ども観光大使選抜講座 盛会御礼新聞 アクモキャンデル

平成29年6月25日

好評続々

満員御礼・急成長の観光大使たち  
6月25日、この日は雨。悪天候の中、定員30名に対して満員御礼の子ども観光大使が次々と高知県民文化ホールに集まってきた。この日の参加は小学生32名、保護者32名の計64名。

この日、会場へ一番乗りは坂本実優さん。笑顔がとっても素敵な実優さんは、立ち止まっても大きく、明るい声で「おはようございます」と爽やかな挨拶をしてくれた。二番目に到着したのは行正空生さん。空生さんは受付で名札を受け取ると「ありがとございます」としっかりと声をかけた。さすがは、子ども観光大使だ。子ども観光大使の基本は笑顔・挨拶・返事。会う度に遅く成長している姿に目を細めるばかりである。

防災学習・備蓄の大切さを学ぶ  
大きな緊急避難バッグを持って登場した。

↑このバッグには何が入って



いるでしょうか？」の問いかけに「食べ物」「水」「毛布」「服」など積極的に予想をする観光大使。この講座では、栃木県那須塩原市のパンアキモトさんが作るパンの缶詰について授業をした。パンの缶詰という焼いたパンが丸ごと入っているイメージだが実はそうではない。パンの缶詰の实物を開けて、全員に試食してもらいながら、その他の防災グッズを紹介した。

## アクモ・キャンデルの秘密

水だけで光る不思議なアクモキャンデル。開発者は一体誰なのか？どのようにして誕生したのか？様々な疑問に明確に答える講座が展開された。  
なんとアクモキャンデルは偶然こぼしたウーロン茶がきっかけとなり誕生した。



発明者の鈴木進さんの元には、アクモキャンデルという新発見の権利を売ってくれという申し込みが絶えなかった。中には500億円という金額を提示する会社も

あった。しかし、鈴木さんは売ることにはなかった。

「電力ネットワークが完備した文明社会に住む私たちは天災で停電でもない限り、光のない夜を送ることはありません。しかし世界には未電化地域やコンセントがあってもしばしば停電になるような地域に住む多くの人々がいます。安価で安全な光をこうした人々に届けることが私たちの使命です。もし権利を売ってしまったら、電気がない地域の人に安く届けることが出来ないと考えたからなのです。」

## アクモ・キャンデルの作成

いよいよ実際に作ってみる。説明を聞きながら一つひとつの作業を順番にやっていく。手元の説明書を確認しながら。



見よ！この真剣な目つきを。

親子で力を合わせてアクモキャンデルを組み立てている。ある男の子が言った。  
「うまくできていますかどうかちょっと心配や」

確かに、このアクモキャンデルは組み立てている段階では成功かどうか分からない。完成後、水につけて初めて成否が分かる。完成した人から会場前方に

ある洗面器の水にアクモキャンデルをつけに来る。



「よっしゃー！」「よかった」と歓喜と安堵の声が会場に響いた。中には、うまく光らなかった児童もいた。そういう時は、再チャレンジあるのみ。新たに作り直したアクモキャンデルで再び挑戦。その結果、全員のアクモキャンデルが見事に点灯をした。

## ランプシェードの作成&鑑賞会

このままで終わらないのもアクモキャンデルの魅力。切り絵の原理を利用して、みんなで作った。10からカウントダウン、消灯。会場には、幻想的な光景が広がった。一人ひとりの作品がしっかりと輝いていた。



## 参加者アンケート(保護者)

・ 本来の意味で光を必要としているところに届けることは、お金には換えられないという所まで教えていただき感動しました。

・ 子どもが積極的に参加してくれたので、親として嬉しく思いました。暗闇の中でライトアップされたキャンデルの美しさに感動しました。

・ 姉弟で参加して、お互いの作品の良い所を取り入れて、教え合っていて嬉しかったです。

## 参加者アンケート(子ども)

・ アクモキャンデルは地震の時だけではなく、神社の祭りなどにも使われていました。

・ アクモキャンデルを水につけるときが一番ドキドキしました。

